

誰一人取り残さない、
夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～人との関わりを支える援助と環境～



もくじ

I 研究の概要

- 1 主題設定の理由
- 2 目指す幼児像・主題
- 3 研究の手立て・方法
- 4 研究の構想図
- 5 研究の内容
 - (1) 園庭マップを元に話し合いを行い、学期毎に保育環境を多角的に見直す。
 - (2) PDCA サイクルを活用した記録を元に、幼児理解・遊び理解を深め、環境の再構成をする。

II まとめ

- 1 1年次の研究の成果
- 2 2年次に向けての課題
- 3 おわりに
- 4 研究にかかわった人

1 研究主題設定の理由

①背景・教育方針 本園は、首都圏有数の大都市である豊島区池袋にあり、人口密度も23区で最も高い地域に所在する幼稚園である。巨大な商業地が近く、グローバルな都市であり、外国籍の園児も多い。その中で、様々な人や自然との関わりを通して、豊かな心と人間関係を形成する力を育み、自立心や道徳性の芽生えを培うことを目指している。

②豊島区の特徴・園の環境 本区は、豊島区アプローチ・スタートカリキュラムを策定し、人との関わりを生きる力の基礎に位置付け、幼稚園の教育活動を尊重し、こども園化や保幼小の連携を通して、関わり合いに注力している。また、本区の特徴の一つとして、少子化による未就学児数の減少、共働きや介護などで長時間の預かり保育を必要とする家庭や、地域性から生じる外国籍の園児の増加などの実態がある。

こうした特色ある地域性を考慮し、本園では園児が、大都市にあっても四季折々の自然の素晴らしさを感じ、自然と関わる機会をもつことが出来るように環境を工夫して保育を行っている。中でも園に隣接されている小学校跡地を生かした行事や体を動かす取り組み、園の花壇や植栽を最大限に生かす実践を通して園児自らが体験を積み重ねることで心身の成長と共に、自然への愛着や畏敬の念を育んでいる。

③幼児の実態 本園の幼児は、園庭などの環境に興味をもち、自ら関わる姿が見られる一方で、外国籍の幼児を初めとして、言葉でのやりとりが難しい幼児や思いをくみ取ってくれる教師と遊びたい幼児の姿が見られる。

どのような人数の学級であろうと、保育定数に関わらず、誰一人取り残さず、子どもたちの主体的で対話的な深い学びを支えていくことが求められている。そのために、言葉を仲立ちとして遊ぶ上で、どのように友達と教師との関わりを支えて行くのかを探る必要がある。

2 目指す幼児像・主題（仮説）

教師はこのような実態の中で、幼児が、様々なことに興味をもち、自ら環境に関わり、自分のしたい遊びに取り組むことや、友達と一緒に関わる楽しさに気付き、友達と協同的に遊びを進める中で、夢中になって遊ぶことを楽しんで欲しいと願っている。

そこで令和5・6年度は、研究主題を「誰一人取り残さない、夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して～人との関わりを支える援助と環境～」と設置し、令和4年度の園内研究で作成した、園庭マップを活用しながら、PDCA サイクルを活用した記録を取り、幼児の実態に合わせて、（関わり合いに）視点をしぼって、環境を再構成すれば、幼児の関わり合いを支えることができるだろうと考え、研究を進めていく。今年度は、研究の筋道を立て、事例集を作成した。

3 研究の手立て

①園庭マップを元に、話し合いを行い、学期毎に保育環境を多角的に見直し、再構成を行う。

②PDCA サイクルを活用した記録を取り、幼児理解・遊び理解をすることで、さらに環境を再構成していく。

③人との関わり合いを支える援助や環境構成について、協議し、省察する。

4 研究の構想図

関係法令など	今年度求められるもの	
●幼稚園教育要領 ●東京都教育目標 ●豊島区教育ビジョン 2019	●言葉の習得が様々な状況の中で、人とのかかわりを支えていく援助や環境構成が求められる。	
幼児の実態	教師の実態	社会的背景
●明るく素直で体を動かすことが好きな幼児が多い。 ●様々な生きものと関わる環境であり、子どもたちの興味・関心も深い。 ●外国籍の幼児が多く、言葉による思いの伝え合いが難しい幼児もいる。 ●友達との関わり以上に、教師との関わりを求める姿が見られる。	●外国籍の幼児とのかかわりや、インクルーシブな学級運営に悩むことが多い。 ●園庭や大明グラウンドの自然環境が豊かだが、活用方法に悩む。	●共働き世帯の増加などの理由から、園児数が減っている。一方で、学校評価の結果などから、遊びを中心とした保育による豊かな教育を望んでいる保護者の実態もある。 ●SDGs に基づいた取り組みが求められている。 ●コロナウイルス感染症の影響から、社会経験（外出や行事への参加など）が乏しい。

目指す幼児像

- 様々なことに興味をもち、自ら環境にかかわり、自分のしたい遊びに取り組む幼児。【自分の夢中】
- 友達かかわり、夢中になって遊ぶことを楽しむ幼児。【友達との夢中】
- 目的に向かって協同的に遊びを進め、くり返し取り組む幼児。【協同性】



研究主題

誰一人取り残さない、夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して
～人との関わりを支える援助と環境～



研究の仮説

園の環境や保育活動について、PDCA サイクルを活用した記録の取り方を実践し、幼児理解や遊び理解を深め、再構成していくことで、人との関わりを支える援助と環境構成がわかり、夢中になって遊ぶことを楽しむ子どもたちを育てることにつながるのではないかと。

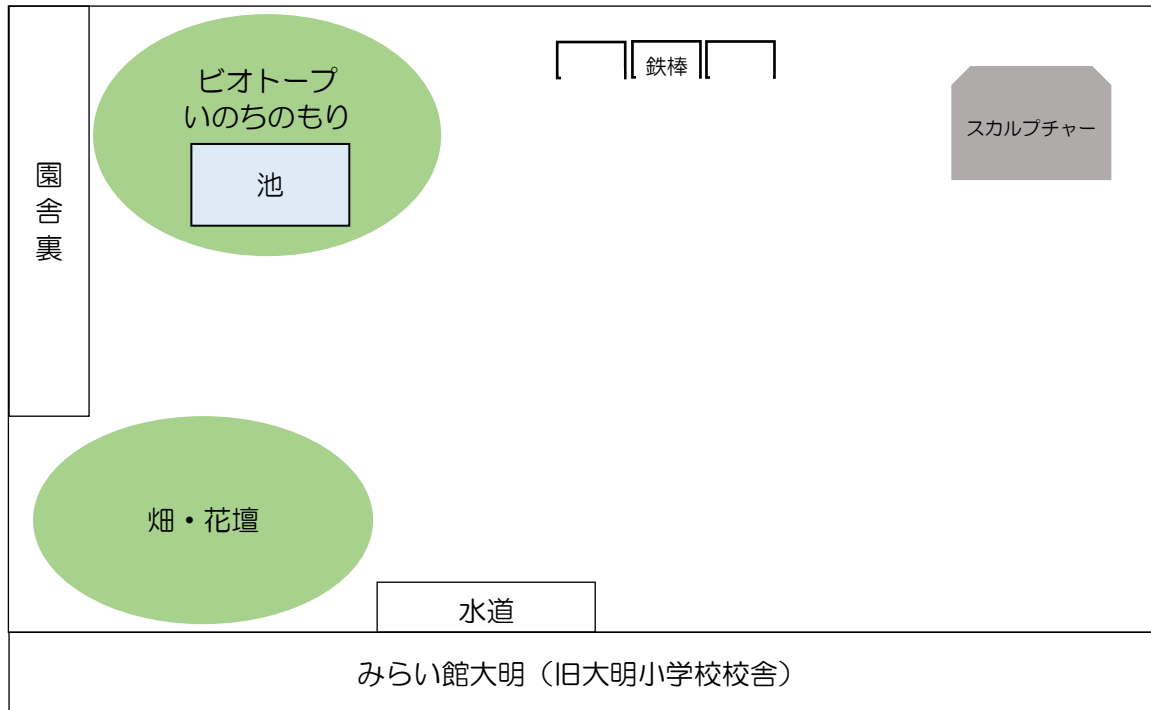


研究の手立て・方法

1 園庭マップを元に、話し合いを行い、学期毎に保育環境を多角的に見直す。	2 PDCA サイクルを活用した記録を元に、幼児理解・遊び理解を深め、環境の再構成をする。	3 人との関わり合いを支える援助や環境構成について、協議し、省察する。
--	---	---

《大明グラウンドマップ》

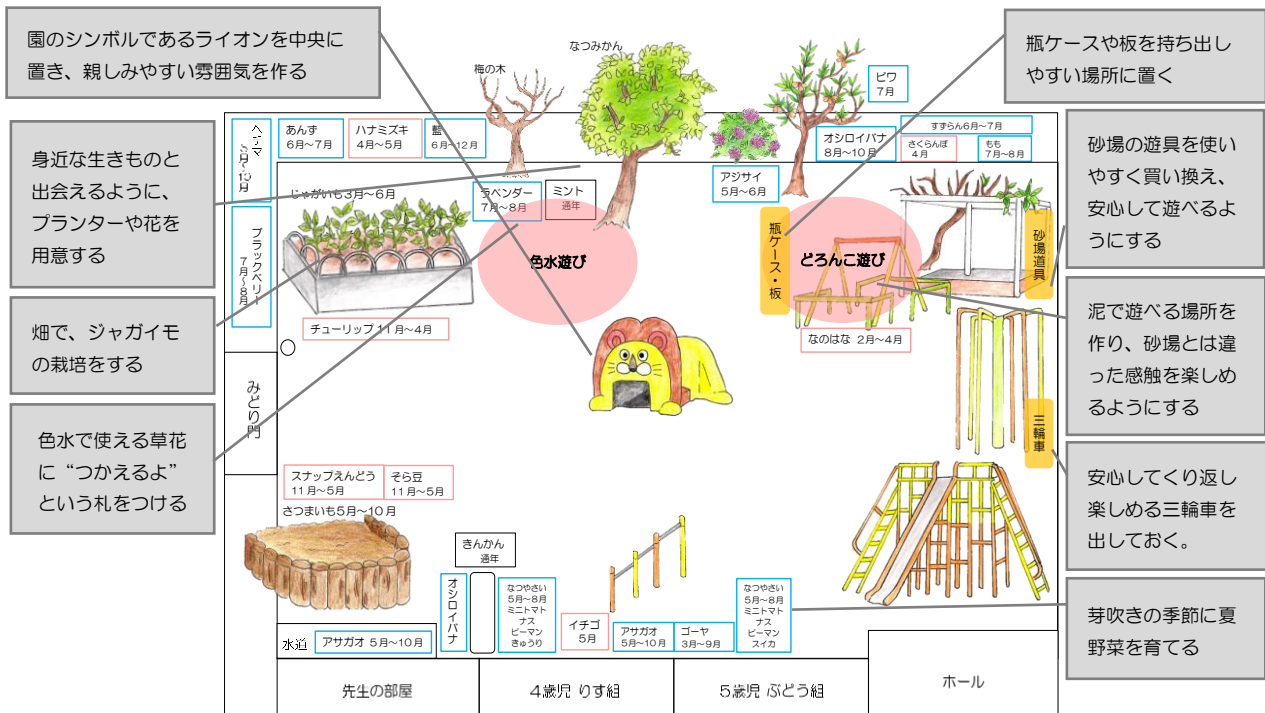
隣接されている小学校跡の大明グラウンドの自然などの環境をまとめたもの。



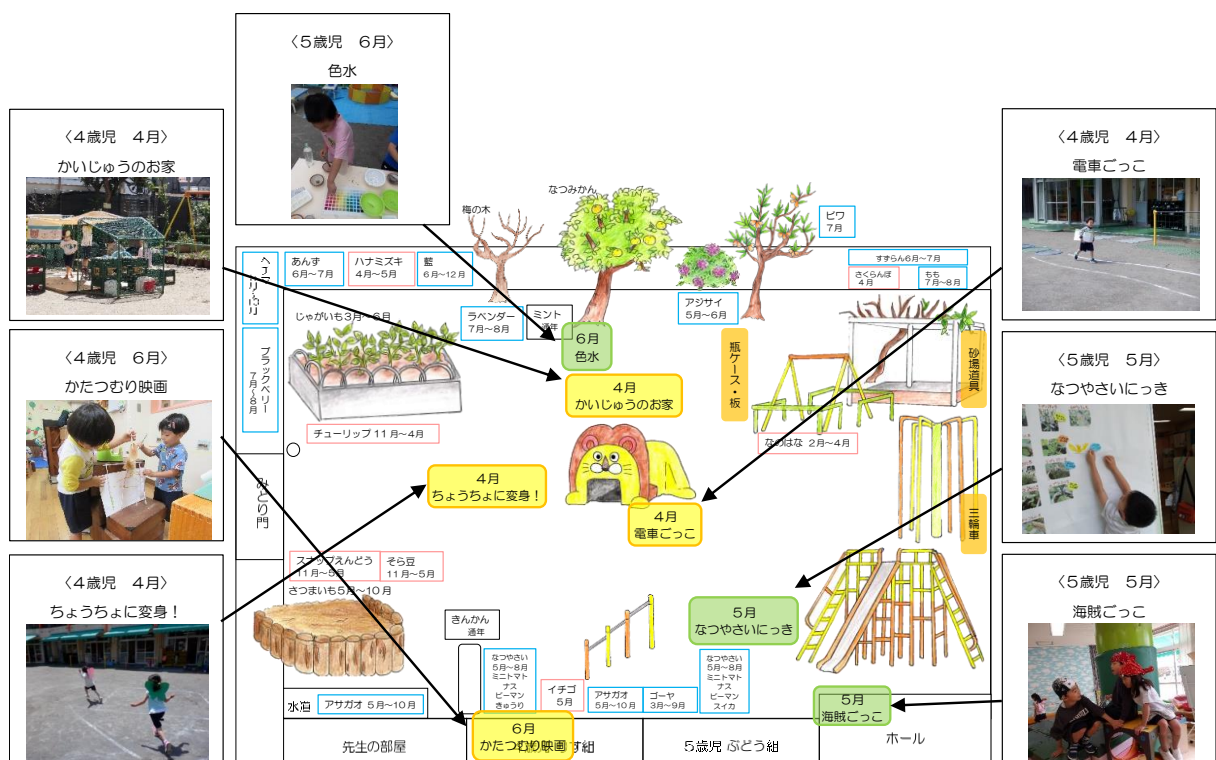
以上のマップを活用しながら、学期毎に環境を振り返り、再構成した。
各学期の園庭を発達段階や幼児の実態、遊びに合わせながら再考していくことを繰り返した。

1 学期

計画 (Plan)

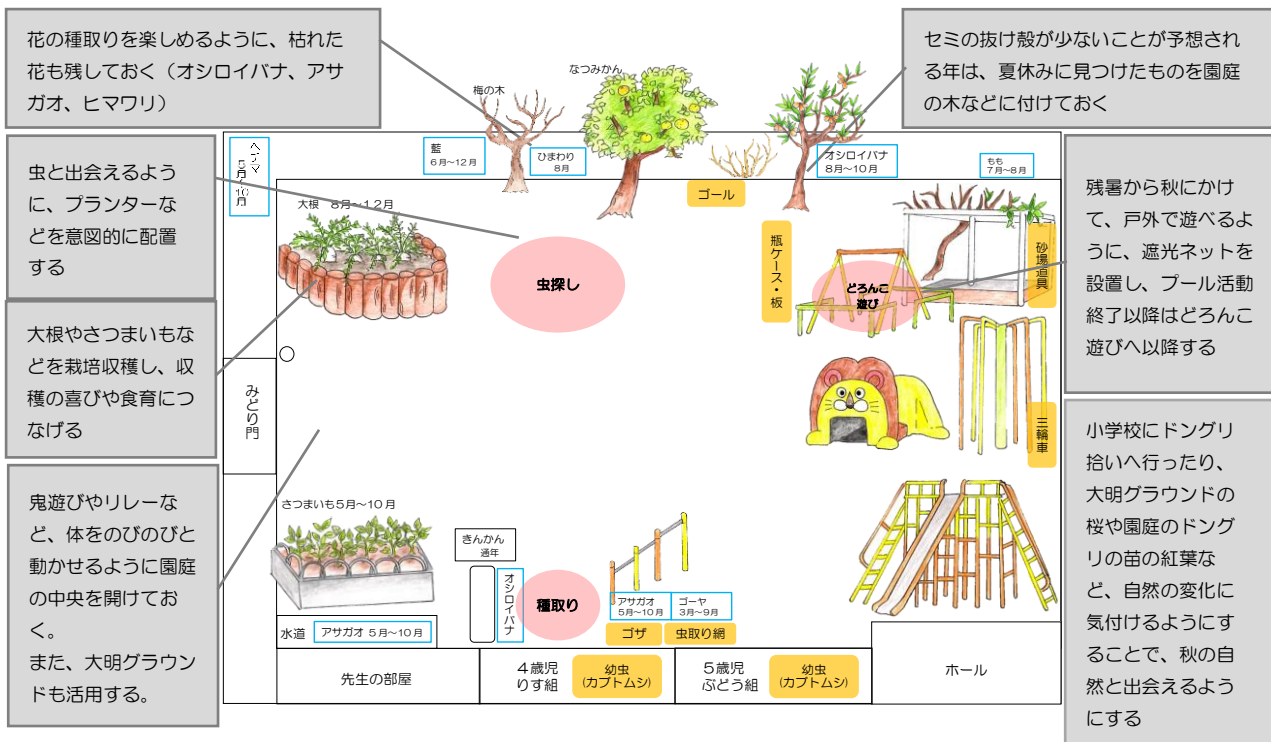


保育実践 (Do)



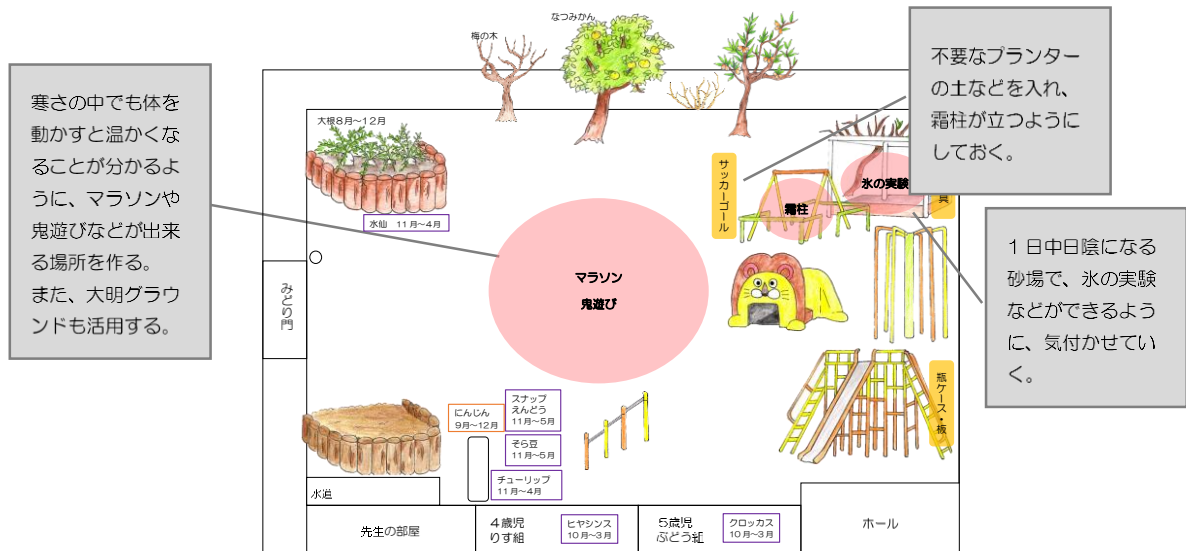
2学期

計画 (Plan)



3学期

計画 (Plan)



(2) PDCA サイクルを活用した記録を元に、幼児理解・遊び理解を深め、
環境の再構成をする。

- マップを元に事例を作成し、幼児理解・遊び理解を深めることにした経緯
- 考察の視点について
人との関わり

4歳児

P10	事例1	4歳児	4月	「ちょうちょに変身！」
P11	事例2	4歳児	4月	「かいじゅうのお家」
P12	事例3	4歳児	4月	「電車ごっこ」
P13	事例4	4歳児	6月	「かたつむり映画」
P14	事例5	4歳児	9月	「虫を捕まえたい！」
P15	事例6	4歳児	9月	「虫に変身！」
P16	事例7	4歳児	9月	「虫取りレンジャー」
P17	事例8	4歳児	9月	「虫取りレンジャー バッタの赤ちゃん」
P18	事例9	4歳児	10月	「なつみかんの色が変わったよ！」
P19	事例10	4歳児	11月	「トンネルを繋げよう」
P20	事例11	4歳児	12月	「ここでもコースを作りたい」
P21	事例12	4歳児	12月	「テントになったよ」

5歳児

P22	事例13	5歳児	5月	「海賊ごっこ」
P23	事例14	5歳児	5月	「なつやさいにっき」
P24	事例15	5歳児	6月	「色水」
P25	事例16	5歳児	10月	「サツマイモの重さ比べ」
P26	事例17	5歳児	10月	「なんで穴が空いているのかな？」
P27	事例18	5歳児	10月	「郵便屋さん」
P28	事例19	5歳児	12月	「ドッジボール」
P29	事例20	5歳児	1月	「キャンプごっこ」

1 1 年次の研究の成果

- 園庭マップを活用して、職員間で園庭環境について話し合うことで、意図をもって環境を見つめ直すことができた。また、時期にあった自然との出会いや遊びを支える環境について、話し合い、多角的な視点をもつことができた。
- 事例を通して、遊びを振り返ることで、学級や子どもたちの育ちや課題に気付く機会になった。
- 事例の読み取りに悩むことが多く、教師自身が保育者として課題だと感じている部分を知ることが出来た。

2 2 年次に向けての課題

- 園庭環境の改善案について、すぐに実現することが難しいものや、時間に余裕がなく、準備出来ないものがあつたため、今後も長期的に改善を加えて行くことが必要である。
- 遊びの展開に応じて、担任から自主的に保育観察をする計画だったが、タイミングや時間の確保が難しかった。保育観察週間を設定するなど、実施日に余裕をもって計画して進めることが必要である。
- 事例は担任の主観でまとめており、園内で事例を検討できていないので、次年度に向けて、事例を絞り、遊び理解・保育理解を深めるために、検討する時間を設ける必要がある。
- 本園の課題から研究主題を考えたが、どのような方法で研究を進めていくべきか方策を検討しており、1 年次は事例集を作成することにした。

3 おわりに

情熱あふれる教師を目指して

豊島区教育委員会事務局庶務課幼児教育推進係長 新井 裕

私たちの職務は目の前にいる子どもの資質をよりよい方向へと導くことに他なりません。そこで、教師の力が最も発揮される場面は言うまでも無く子どもと関わる保育の場面です。園児の活動に適切な支援を施し、教師が質の高い保育を実践することにより園児の活動意欲は高まり、遊びを通した学びが深まります。そのためには、教師は、広い視野や豊かな感性で園児と関わろうとする姿勢が求められます。

本園は、今年度研究主題を「誰一人取り残さない、夢中になって遊ぶ幼児の育成を目指して～人との関わりを支える援助と環境～」と題して研究を積み重ねて参りました。研究に携わられた講師の先生方からは、本園の取組の成果と課題を適切に捉えていただき、具体的なご提言を多数賜りました。これからも、幼児教育の更なる推進役となり、情熱のある教師として園児と関わり、園児の思いや願いを叶えられる関わり方を尊ぶ園環境作りを進めて参ります。ご指導いただきました先生方に心より御礼を申し上げます。

4 研究にかかわった人

■講師

共立女子大学家政学部児童学科教授

田代 幸代 先生

武蔵野大学教育学部幼児教育学科教授

箕輪 潤子 先生

明治学院大学非常勤講師

田代 恵美子 先生

十文字学園女子大学非常勤講師

公益社団法人全国幼児教育研究協会理事長

福井 直美 先生

■研究に携わった教員

園長職務代理者

富本 保明

幼児教育推進係長

新井 裕

教諭

栗原 佳鈴

教諭

山部 昌史

道徳性育成指導員

外崎 恵子

預かり保育指導員

新井 弘美

特別支援指導員

田中 雅美

豊島区立池袋幼稚園